

富士通ゼネラル ICC

Fujitsu General Innovation & Communication Center

No. 19-024-2019作成

新築
事務所／研究所

発注者	株式会社富士通ゼネラル	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
設計・監理	(株)安藤・間一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	(株)安藤・間東京支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

良質な執務環境を設けた研究施設

ZEB Readyの省エネルギー性能

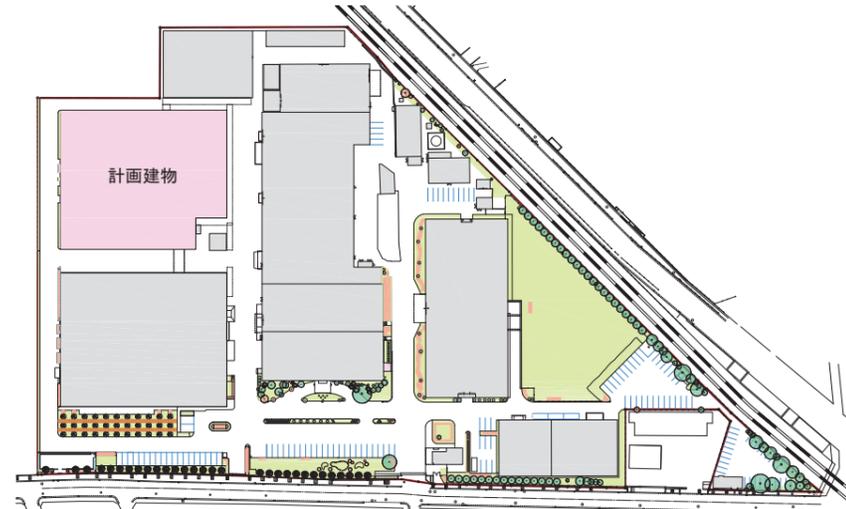
新たな価値創出を加速させる開発拠点として建設されたイノベーション&コミュニケーションセンター。事業主が開発している高効率空調機をはじめ、各種の省エネ技術を採用し、高い省エネルギー性能を持つ建物として計画されている。基準一次エネルギーからの削減率は61%を達成し、BELS認証にてZEB Ready評価を取得。研究開発エリアは将来に渡って多様な研究試験装置の設置に対応できるよう、避難安全検証法を利用してコアを圧縮した平面計画と合わせ、階高さ、床荷重にゆとりを持たせた構造計画を行い、意匠とともに空調・照明設備は最少化を図り、機能の拡張性を確保したスケルトン仕様の最適化を実現している。

(省エネルギー採用技術)

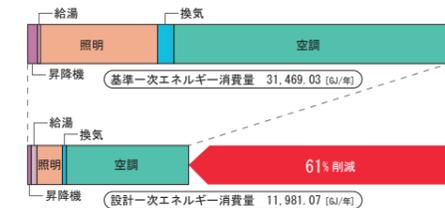
- 外皮性能 外壁断熱強化、ガラスの複層化
- 空調設備 高効率空調機の採用、全熱交換器の高効率化
- 照明設備 LED照明、初期照度補正、人感センサー、明るさ検知制御、スケジュール運転
- 昇降機 可変電圧可変周波数制御

周辺環境を豊かにする緑化計画

工業地域に立地するが、条例基準の1.5倍の緑地面積を確保している。緑地の多くを設けている沿道部、敷地境界部は駐車場等の空地スペースと組み合わせて配置することで建物ボリュームを後退させ、高木の桜並木と合わせて周辺環境の向上に緑化で貢献している。



緑化計画図



	基準値 (MJ/㎡・年)	設計値 (MJ/㎡・年)	BPI
PAL*	470	335	0.72
	基準一次エネルギー消費量 (GJ/年)	設計一次エネルギー消費量 (GJ/年)	BEI
空調設備	20,484.19	9,095.69	0.45
換気設備	1,209.88	298.33	0.25
照明設備	8,820.41	1,905.27	0.22
給湯設備	213.21	415.11	1.95
昇降機	741.34	266.67	0.36
合計	31,469.03	11,981.07	0.39



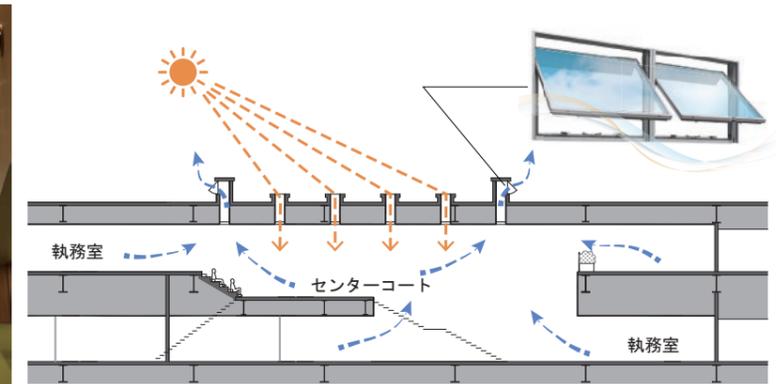
敷地緑化状況

吹き抜けを利用した自然エネルギーの有効利用

執務エリアの中央には部門間のシナジーを促進するため、異なる部署の従業員同士のコミュニケーションを誘発する「センターコート」を2層吹き抜けで設けている。吹き抜けの頂部には自然光を導くトップライトと、各階の窓から取り入れた外気が温度差によって換気される自然換気窓を設けている。自然換気は中間期の利用を想定しており、スケジュールと外気温により、自然換気窓の開閉を制御している。また、自然換気窓を2方向に向けて設けており、外部の風速が一定以上となった場合は、風上側は一時閉鎖状態となる。これにより、室内に強風が入り込むことを防ぎ、良好な室内環境を維持できる。



センターコート



センターコート断面図

多様な執務環境と豊かなリフレッシュスペース

イノベーションを促進させる仕組みとして、仕切りを作らない開放的な環境で、小規模の勉強会や研究成果の発表、大人数を対象にしたセミナーや研修会などを開催できる「ワイガヤキャンパス」や、執務室の窓際のエリアには、一人で熟考したり、少人数で論考・精査するための「集中ブース」といった多様な執務環境を設けている。また事業主の健康経営推進の考えを実践する「健康デザインセンター」を設置しており、軽い運動やヨガなどができるオープンスペースや雲梯やエアロバイクなどの健康器具を設置し、従業員同士がコミュニケーションをとりながら、リフレッシュして執務に取り組むことができる。

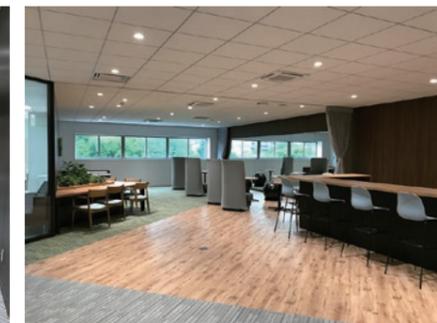


健康デザインセンター

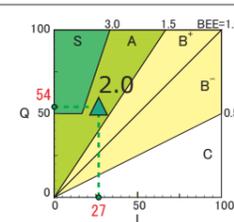


設計担当者

統括：桑田具実／建築：佐藤大樹、瓜生なつみ、上野桃／構造：鈴木和弘、村山彰宏
設備：佐々木淳嗣、鶴見祐二、藤木昭弘、郷榮治



建物データ	所在地	神奈川県川崎市	省エネルギー性能	PAL削減	18 %	CASBEE評価	Aランク
竣工年	2019年	敷地面積	45,804㎡	ERR (CASBEE準拠)	45 %	BEE=2.0	BEE=2.0
延床面積	21,183㎡	構造	S造、一部CFT造	LCCO ₂ 削減	35 %	2017年度版自治体提出	2017年度版自治体提出
階数	地上5階、塔屋1階			BELS	★★★★★		
				ZEB Ready			



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 3. 対応性・更新性 (コア圧縮による壁長さ比率最小化、階高、荷重のゆとり設定)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (沿道部、敷地境界部の桜並木による景観形成)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (PAL性能、外壁断熱の強化、ガラス複層化、日射遮蔽)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然換気、自然採光)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、センサー制御)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (マイクロバスの運行、地域行事への駐車場の貸出)